

造影剤使用についての説明書

(患者様控)

造影剤を用いることによって、造影剤を使用しない検査では見えなかったものが見えてきたり、あなたの病気の状態を画像で詳細に分析できるようになります。さらに、病気の状態を明確にすることが可能になるため治療しやすくなります。

造影剤は、危険な薬ではありませんが、まれに副作用が起こることがあります。また、検査や目的によって使用する造影剤の種類が違ってきます。CTやIVP、DIC、心臓カテーテル検査等ではヨード系造影剤が使用され、MRIでは、ガドリニウムや鉄製剤を使用します。

◎副作用の種類は、次のようなものが報告されています。

1.軽い副作用

- かゆみ、発疹、吐き気、嘔吐など基本的に治療は不要です。
- ヨード系造影剤での頻度は、0.5%程度（1000人に5人）です。
- ガドリニウムや鉄製剤では、0.4%程度（1000人に4人）です。

2.重い副作用

- 呼吸困難、血圧低下、けいれん、意識消失などです。
- このような症状の場合は通常治療が必要となります。
- ヨード系造影剤での頻度は、0.04%程度（1万人に4人）です。
- ガドリニウムや鉄製剤では、0.05%程度（1万人に5人）です。

3.極めて重い副作用

- 重い副作用のうち入院や、治療が必要となることもあります。
- ヨード系造影剤での頻度は、0.004%程度（5万人に2人）です。
- ガドリニウムや鉄製剤では、0.002%程度（5万人に1人）です。

【CT検査ではどんな感じなの？】

- 機械を使って注入します。
- 体が熱く感じる場合があります。（すぐにおさまります）
- 勢いよく造影剤を注入するために、血管外に漏れることがあります。
この場合、注射部位が腫れて痛みを伴うこともありますが、時間とともに吸収され、心配ありません。非常に稀ですが、漏れた量が多い場合は別の処置が必要となることもあります。

【MRI検査ではどんな感じなの？】

- 機械を使って注入する場合があります。
- 血管外に漏れる場合がありますが、CTと同様心配ありません。

当院では万一の副作用に対して、万全の体制を整えて検査を行っておりますが、副作用は検査後数時間～数日後に発生することもあります。もし変だと感じられましたら、すぐに当院へお知らせ下さい。

※不明な点やお問い合わせは、下記の方までご連絡下さい。